

「中国の台頭——世界システム内での変化」(Rise of China: Changes in the World System)

政策研究大学院大学

田中明彦

1920年代から2020年代にかけての世界システムの変化を、力の分布、紛争規模・形態、経済成長、経済相互依存、統治イデオロギーの側面から概観し、その中での中国の位置づけを確認することにより、現在の「中国の台頭」の意味を考える。世界システムの展開は、単純化すれば以下の表のように整理できる。

世界システムの構造変容

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期
時期	1920-1929	1929-1945	1945-1970	1970-1990	1990-2010	2010-
力の分布	多	多	2	2→多	1→2	2
紛争	少ない	熱・大規模	熱・中規模	内戦増加	内戦減少	内戦増加
経済成長	高	低	高	中	高	中
相互依存	中	低	中	中→高	高(上昇)	高(停滞)
政治体制	民主増加	専制増加	民主漸増	民主増加	民主急増	民専拮抗

このような世界システムの変化のなかで、中国は、第1期から第3期にかけて、内戦と国家間戦争の戦場となり、第3期に中華人民共和国を成立させ専制体制を確立したが、経済は低調・相互依存もすすまなかった。第4期の中国は文化大革命の収束から改革・解放路線へと転換をなしとげ、第5期の中国は冷戦後の経済相互依存の急上昇のなかで高度経済成長を実現し、第5期の世界的な高度成長の代表例となり、力の分布における2極の一方の極となった。他方、世界的に民主化が進んだ第5期において部分的な政治改革の方向性がすすんだが、第6期の世界的な中成長のなかで高度経済成長を続け、政治体制はかえって専制を押し進め、政治体制における民主・専制拮抗の象徴的存在となった。力の2極分布は、統治イデオロギーをめぐる対立とともにあり、かつての「冷戦」と相似しているが、経済相互依存の度合いが圧倒的に高いという点で相違がある。